日刊 動労千葉

83. 6. 29

No. 1377

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

臨調・行革粉砕！　三里塚ジェット闘争勝利！

輝く初優勝 千葉転支部

第5回春季野球大会

六月二七日九時より、動労千葉サークル協・野球大会の準決勝、決勝戦及び、引き分け再試合の四試合が千葉市・更科球場で行われました。

雨雲を吹き飛ばす熱戦がくりひろげられた結果、新ユニホームの千葉転支部が団結力を発揮し、輝く初優勝をかざりました。

試合終了後、表彰式が行われ、関川委員長より各賞状、賞品が手渡され、盛大な拍手のなかで閉会しました。

津田沼、千葉転、佐倉、成田の四強、白熱の準決勝を闘う！

＜引き合け試合＞

木更津	0	1	0	0	0	0	0		1
津田沼	0	3	0	0	0	2	X		5X

木更津二回表、四番佐野のヒットを足場に盗塁とスクイズで一点先取。その裏津田沼、連続四球と関、鎌田の二塁打で三得点を挙げ逆点、六回もヒットと四球のランナーをおいて二番古川のヒットで二点追加。三回以後、津田沼小倉投手の安定した投球で木更津を無得点に押さえ、再試合の結着をつけた。

＜準決勝・第一試合＞

千葉転	0	0	0	0	0	3	0	3
成田	0	0	0	0	0	2	0	2

五回まで成田伊藤、千葉転中村の両投手の力投でゼロ行進をかさねたが、六回表千葉転はサードゴロエラーと三番中村の四球で無死一・二塁とし、四番戸田の送りバントで一死二・三塁、朝倉、矢沢、高橋の三連打で一挙三点をあげる。

一方成田もその裏、四番成毛、五番小守の長短打で二点を返したが及ばず中村投手の力投に押さえられた。

＜準決勝・第二試合＞

津田沼	2	0	1	0	0	0	2		5
佐倉	0	0	0	0	0	1	0		1

一回表津田沼、二死から四球、エラー、死球で満塁、佐倉小林投手の三塁けん制悪投で二点先取、三回も四球の鎌田をおいて江沢のライト前ヒットと後逸で一点追加した。津田沼行川投手の好投に押さえられていた佐倉は六回、二番大竹が四球で出塁・二・三盗塁を決め、五番椎名のヒットで一点返したが、七回津田沼四番石川の二点タイムリーでダメ押される。

三連戦の津田沼、惜しくも連覇ならず、千葉転気迫の猛攻で初優勝

＜決　勝　戦＞

千葉転	3	3	0	0	0	2	1		9
津田沼	0	0	2	0	0	0	0		2

たれこめた雨雲も遠ざかり、グランドコンディション良好の中、日暮審判長のプレイボールで熱戦の火ブタが切られた。

初優勝をねらう気迫の千葉転、一回表、津田沼小倉投手の立ちあがりを一気に攻め、一番田辺の強烈なレフト前ヒット、藤平（充）四球、中村の犠牲バントで二・三塁とし、四番戸田の左中間三塁打と六番矢沢のヒットで三点を先取、続く二回表も二死から二番藤平（充）のヒットと戸田、朝倉の長短打で三点追加し優勢となる。

一方津田沼三回表、一番関のヒットと鎌田の四球、石川の内野ゴロをエラーする間に二点を返したが、連投の千葉転中村投手の奮闘に得点できず。

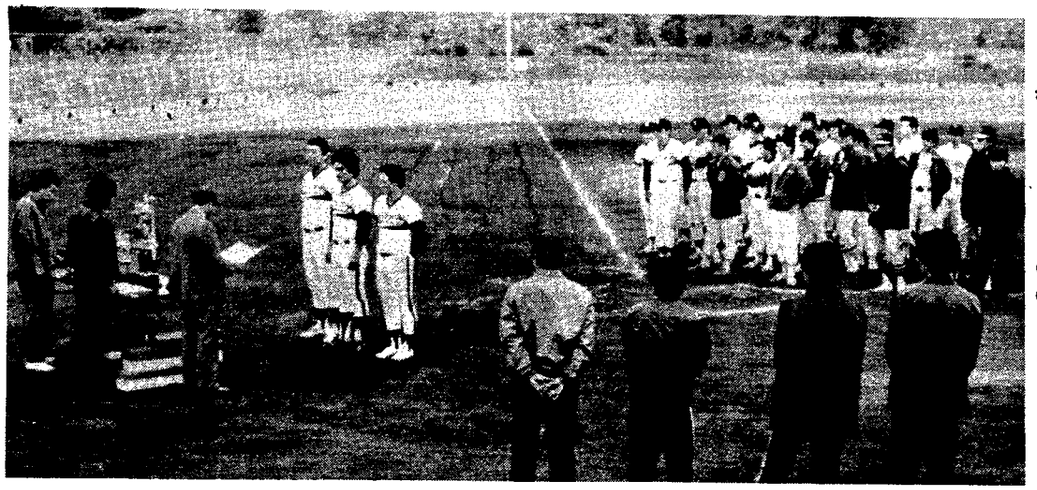
千葉転六回表に二点、七回表に一点計九点の大量点で試合を一方的とし、みごと初優勝をかざった。

（チーム成績）

優　勝　千葉転支部
準優勝　津田沼支部
第三位　成田支部
第三位　佐倉支部

（個人賞）

最優秀選手　中村　仁・千葉転
打撃賞　戸田隆雄・千葉転
敢闘賞　高橋富味雄・千葉転
敢闘賞　行川　要・津田沼



熱戦の後、関川委員長より表彰をうける優勝の千葉転チーム

サークル協・卓球大会
○七月十九日、九時三〇分～
○天台スポーツセンター体育館
○年令別に「団体戦」「個人戦」を行います。
ふるって参加して下さい。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！